神奈川県立あおば支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

<table>
<tr><td>審議会等名称</td><td colspan="3">令和５年度　神奈川県立あおば支援学校第５回学校運営協議会</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="3">令和６年３月７日（木）午前９時 30 分～午前 11 時 30 分</td></tr>
<tr><td>開催場所</td><td colspan="3">会議室</td></tr>
<tr><td>出席者</td><td colspan="3">委員：12 名
事務局：7 名</td></tr>
<tr><td>次回開催予定日</td><td colspan="3">令和６年５月 10 日（金）午前９時 30 分～午前 11 時 30 分</td></tr>
<tr><td>問い合わせ先</td><td colspan="3">神奈川県立あおば支援学校　　副校長　佐藤　浩栄
電話番号　　０４５－９７８－１１６１
ファックス番号　０４５－９７８－１１６０</td></tr>
<tr><td>下欄に掲載するもの</td><td>議事録</td><td>議事概要とした理由</td><td></td></tr>
<tr><td>審議(会議)経過</td><td colspan="3">（１）学校長挨拶
今年度最後の学校運営協議会。今年度のまとめと次年度の方向性について話をしたい。
〇主なインシデント報告
①降雪による臨時休業（２月）
②停電による給食配食の遅延（落雷によるガスの停止によるものだった）
③インフルエンザ感染に伴う学級閉鎖（３回対応をとった）
〇これまでの取組
１月～２月
①中３卒業遠足の中止→特例での卒業校外学習を実施
②水害避難訓練の実施
③公開授業校内研究報告会の実施（ミッションの実現、地域の活性化）
〇これからの予定
①卒業式、入学式の案内
〇次年度に向けて
①令和６年度児童・生徒数について（213 名の在籍予定）
②県当初予算関係報告
③新校開設、医ケア児の環境整備、通学支援、業務アシスタントの配置、
④給食費補助事業終了</td></tr>
</table>

	○学校の取組 ①授業時数の見直し、あおばオープンデイ、スポーツフェスタにあおばの会ブース設置 ②個別教育計画の書式見直し ③アセスメントを実施 ④学校運営協議会 ・要綱の改正。学校評価部会の役割拡充。第三者評価、有識者２名。 ・委員は再任の方向で調整。（杉浦様は退任、今後顧問、羽田先生も退任） ⑤能登半島災害募金 ・学校として実施。珠洲市にある特別支援学校（分校含め）が被害大きいとのこと。 （質疑応答） Ａ：インシデント報告の中で、保護者からのクレームや児童のケガ等、日常のインシデントが大切だが、そのような対応についてはどうか。数字で見られるといいのではないか。 校長：日常的に保健室で記録を取っている。頭部打撲などには日々気を遣っている。 Ｂ：ケガ等は学校保健安全委員会の中で統計を取っている。県へも報告するシステムになっている。 Ｃ：この学校の自家発電の容量は？ 校長：連続で８時間くらい。電気は使えるがガスが止まることについては今後どのように対策していくか検討が必要である。 Ｄ：能登の地震で災害の大変さが課題に感じられた。特に医療的ケアへの対応が課題である。 校長：SB との協定で、発電させることで補えるようにはしている。ただ、水害だとバスが使えない、ということも課題として分かった。発電機不足の課題は見られる。 Ｅ：本校は電気室が半地下なので水害だと使えなくなる。近くの中学校には発電機が沢山あるとのことだが、本校の児童生徒が行くとなるととても足りないと思われる。 Ｆ：能登半島地震では特別支援学校が何重にも困っているのではないか、と思われる。特別支援学校としてどんな事が困ったのかということも学ばせてもらえるのではないか。一過性の募金だけではなく、良い関係を作っていけると良い。実際の声を聞く

	と、今できることは募金。寄せ書きなどは迷惑とのこと。県の特別支援学校校長会から能登の特別支援学校校長会に送る。今後も息の長い繋がりができると良い。 （２）日程、協議内容の説明 （３）学校評価部会　協議 〇保護者アンケート検証結果について　※別紙資料のとおり（副校長より報告） →３年間の推移から学校からの発信という部分が課題だと思われる。 Ｇ：保護者の立場として、自分の子どもはまだ小学部だがキャリアという部分も分からない中､答えなくてはいけない内容もある。学年に応じた内容になっているとその中での実態が分かるのではないか。もう少し分かりやすい質問の内容でもいいのではないか。 Ｈ：やっていることと聞かれていることが結びつかないということはある。例えば専門性とは何か、など、注釈があるなどあると分かりやすい。参考までに、アンケートを Google フォームでとって、用語についてクリックすると分かりやすい説明も併せて見られるようにしている学校もある。 Ｊ：アンケートが紙でなく電子だと、簡単だが回収率は良くない傾向ある。発信が課題、ということはよく分かる。分かりづらいから答えないということもあるだろう。写真の掲載は難しいということも学校としてよく分かる。 Ｋ：移行支援という言葉が良く出てくるが、これは通学などのことを示しているか。 副校長：移行支援は、「進路」と捉えられると分かりやすい。 校長：本校としては、進路だけでない、小学部から中学部、中学部から高等部に進学する際も移行のため支援と考えているため、そのような呼び方にしている。 Ｌ：言葉の問題だと、学校用語はよく分からない部分がある。用語集を作るなども分かりやすいかもしれない。 〇学校評価（実施結果）について　　※別紙資料のとおり（副校長より報告） →周知されていないために、否定的・分からないということに繋

	がっている部分がある。 　→地域との協働により、子どもたちの成長につながっている様子が見られる。 　→不祥事防止「アットホームあおば」という標語を作成した。 M：校長として、今年の学校の自己評価としての課題や、大事にしていきたいことは何か。 校長：大切な理念を持って作られた学校であることを踏まえ、今後は理念を大切にしながらも、内容を整理していく必要があると思っている。スクラップ＆ビルドが課題だと感じている。例えば、個別教育計画の書式変更。理念は大切にしながら教員の書きやすさも重視する必要がある。年間計画や行事も、理念を大切にしつつ、どのように形作っていくか検討していく必要がある。 N：先生方は大変だと思う。書類に追われることもある。子どもたちと対面する時間と他作業に追われる時間の割合はどうか。 校長：1日の勤務時間は8時半から17時までだが、8割子どもたちと接していて、2割が他の作業等に当てる時間。2割の時間では勤務時間内でなかなか業務が終わらないのが現状である。 O：他校の状況を聞くと、教材づくりなどが大変そうだが、どうですか。 校長：データベース作りなど工夫していけるとよい。個別教育計画も保護者と協働しながら作っていきながら、負担などを減らしてやっていけるとよい。 P：やっていることをやらなくなることが大変。理念を大切にしていくこともわかるが、必要性についてみんなで話す時間もないのが現状だろう。教員同士が話す時間も必要。みんなで考えれば決まることも一人で抱えていることがある。思い切ってやめなきゃだめなものもあると思われる。 Q：先生方のやり取りはどのような方法で行われているのか。 校長：Teams のチャット機能が活用されている。ただ、その活用方法は様々。便利だと感じている人もいれば、億劫に感じている人もいると思われる。 R：保護者の方とのやり取りなどに利用するにもメリット・デメリットがある。 校長：先生達の健康面が心配。早く帰れと言われることもストレス

	と感じているのではないか。 Ｓ：教材の共有などはどのようにされているのか。皆さん同じような物を使っているのではないか。写真など 使えるものは共通で使えるようになるといいのではないか。 校長：そこまで蓄積されていない。今後の課題だと感じる。 Ｔ：どこを取っていくかが難しい。自分で子どもたちに合ったものを作って提供することが教員のやりがいになるという人もいる。ある程度仕事を手放していくという考え方をしていかないと働き方改革につながらない。 今後の教員不足についても、意識改革が必要である。 Ｕ：共通項目については見える化して、他の部分は先生達の個性という形でやっていけるとよい。 Ｖ：分業化していくシステムが必要である。 Ｗ：外部の人の知識、経験を授業の中に取り入れていけるとよい。 Ｘ：これまで全て教員がやっていた部分を、外部へ、という方向でやっていけるとよい。 校長：教員も足りない中、授業を抜け出すことすらできない状況である。 Ｙ：各校１０名くらいが定数に満たない状況にある。 校長：改善していきたいと思いながらも、難しい状況にある。 Ｚ：福祉も人手不足については課題。福祉も教員も大変だということばかりが報道されていて、良いことが発信されていない。もっとこの仕事の楽しさを言っていかないといけない。人づくりをしていかないといけない。 校長：本校としては、大学生がボランティアに入ってもらうことで、学校の様子を知ってもらっている部分はある。 Ａ：学校だけでなく、福祉も高齢化している。国を挙げて発信していく必要がある。事業所でも Instagram などで発信しているが、まだ知られていない部分がある。 校長：本校も HP の充実が課題。他校ではＸ（旧 Twitter）、Instagram などを取り組んでいる学校もある。個人情報のこともあるがやっていけるとよい。 Ｂ：やったほうがよいことはあるが、全て学校か絡むのが大変。外部委託ができるといい。学校だよりなどは、結局は紙でないと難しい部分がある。プールの清掃やワックスがけなどは、今は外部委託だが、外部に委託するにもお金が必要にある。

	Ｃ：あおばまるでも HP を作成してみた。誰でも作れるというシステムを作っておくと、誰でもできる。Google のサイトなどを使える。ただ写真などを載せられると様子も伝えられるが、子どもが写っていると載せられない。アンケートからもせっかく一生懸命取り組んでいるのに、それが知られていないことが分かる。 Ｄ：外部人材との繋がりもあるが、学部間のつながりも課題か。小と高のつながりについては、双方からの相談があったことで、これとこれは一緒にできるのではないか、ということで活動がつながった。今後も地域 Ｃｏを活用してもらえるとよい。水戸で発表した時にも、ＨＰをもとに紹介した。もっと生き生きした写真を載せられるとよいと思っている。 Ｅ：あおばまるがあることで違うもの同士を繋げることができるのがこの学校の利点。スクラップする時にも学校運営協議会の決定、ということでいけばよいこともある。先生方の働き方については、これまでやってきていることを変えなければいけない時期に来ていると思う。初歩的なところをもう一回見直すことができるとよい。ＩＴの活用、日常のコミュニケーションも大切。カフェコーナーなどでの雑談など、とまり木 のような学部を越えて話せるような仕組み作りができるとよい。些細なことを話せるコーナーなど。 Ｆ：特に用はないけれど、立ち寄ってくれる先生もいる。地域 Co としても学校運営協議会の委員でもあるので、安心して取り組める部分がある。 Ｇ：OJT で、職場体験のように校内で体験しあうことができるシステムなどがあっても良い。 ○人権が尊重された授業づくりについて　※別紙資料のとおり（副校長より説明） →全体的に前期に比べて後期は良くなっている。 Ｈ：当初教員としてこんなことも知らないのか、と、少し恥ずかしいような気もしていたが、勇気のある取組だと思う。前期と後期で良くなっている。すごくよい取り組みだったと思う。 （４）休憩 （５）学校運営協議会　協議

	○オリオリ教室について →校長より、スケジュール表から事業の経緯と状況、今後の計画を説明。来年度まで県のかなパラ事業の一環として取組んできたが、再来年度からは学校の事業として取組んでいきたい。月に何回、ということではなく、できる時に行えるような形にしていけるといい。団体への呼びかけ→試行していく。 Ｉ：現在事業委託している総合型地域スポーツクラブでは、も個人の力が強い。負担の大きさが心配されていた。この考え方としてはよいと思うが、団体の方が本当にいくつかある団体をまとめていくことができるのかが心配。団体の目算はあるのか？どこか一つの団体がまとめてくれればよいのだが。 校長：そのあたりを「あおばまる」がうまく調整してくれるとよいと思っている。できれば、やらされているのではなく、参加したいという団体にお願いしていけるとよい。 Ｊ：賛同してくれそうな団体はいくつかピックアップしている。 Ｋ：仲間としてみんなで協力し合って運営していけるような形を考えている。 Ｌ：ゆるく始めて、徐々に整えていけることを考えている。 Ｍ：とても理解のある団体が今活動している中にいる。障害者のためにやりたい、という団体にお願いしたい。 Ｎ：毎月等ではなく、やりたい時に開催という形を考えている。 Ｏ：基本はボランティアという形で考えていて、それに賛同してもらえる方に声をかけている。皆さん、活動場所を探しているので、賛同してもらえるところはありそうである。 Ｐ：開校当時は０からのスタートで始めている。これからは次のステージで、自立して組織でやっていけるとよい。あおばまるはネットワークのハブにはなるが、実際には「おりおりくらぶ」としてやっていけるといい。今の倶楽部は本当に大変な中から構築してくださった。 Ｑ：あまり苦にならないような組織としてやっていけるとよい。 校長：今は，年間７０回くらいやっているが、「おりおりくらぶ」は負担のないようにやっていけるとよい。令和７年度にはスポーツ課は事業からは手をひくため、やっていかなければならない。 Ｒ：スポーツ課の事業としては立ち上げのためのものなので、今後は自立していく時期。倶楽部さんには本当にここまでよくやっていただいた。

	校長：オリオリ教室は今後の土台となる。現在事業委託している総合型クラブさんに作っていただいた。 Ｓ：大学、研究室との連携など、学生を有効活用していくことも良いのではないか。社会福祉士、介護福祉士を目指している大学などもうまくつながっていけるとよい。若い人の人材育成という部分でもよい。 校長：大学や看護学校などの連携ができている。今後も考えていけるとよい。来年は新たな大学との連携も予定している。 Ｔ:組織的につながっていけると今後も継続的につながっていける。今後も広げていけるとよい。 Ｕ:「おりおりくらぶ」だと、学生も授業が終わった後に参加できて、通常のボランティアとは違った視点で参加できそう。保護者や地域の方とも繋がれて人材育成にも繋がれそうである。 Ｖ：放デイをやっているので、学生も来る。福祉系の学生は、意識の高い学生もいる。授業の合間などにも来られそうである。 Ｗ：兄弟児で、「おりおりくらぶ」で休日などの開催があれば、一緒に参加できそうである。 校長：年度初めに規約等の改正をしていきたいと思っている。 〇次年度の計画について →副校長より。次年度は第１回を、５月１０日（金）９：３０で考えているので予定しておいていただきたい。 （６）まとめ 〇退任される方の挨拶 （７）閉会